

## 鶴嶺東地区まちぢから協議会との広報に関する意見交換会を開催しました

本年6月10日開催の茅ヶ崎市まちぢから協議会連絡会において、湘南地区の特定事業助成金を活用した広報活動の事例発表に対し好評であったこともあり、鶴嶺東地区まちぢから協議会より広報活動活性化を図るための課題に対して、湘南地区ではどうしているか、につき聞きたいという要望がありました。

11月17日（土）16：00からコミセン湘南の大会議室にて意見交換会を開催しました。

当日は、鶴嶺東地区より4名、（岩壁まちぢから協議会会長、松本まちぢから協議会副会長、斎藤まちぢから協議会広報部会長、大澤まちぢから協議会広報部副会長）、湘南地区まちぢから協議会からは6名（後藤まちぢから協議会会長、渡邊コミセン湘南事務局長、広報部会より小谷会長、石井ホームページリーダー、市場広報紙リーダー、小嶋広報紙担当）、そして茅ヶ崎市市民自治推進課から渡邊地域担当を含め出席者11名でした。

約1時間半にわたり、活発な意見交換を行いました。



鶴嶺東地区からは、湘南地区まちぢから協議会の組織、広報部会の組織構成及びその運営をどのように行っているかや、ホームページや広報紙発行のための要員の育成、そして情報の集め方や情報の計上方法などの質問が上がりました。

その質問に湘南地区の直接の関係者が答える中で、湘南地区はまちぢから協議会発足前から自治会だけでなく各団体も一緒に集まって話し合い・活動してきた場を持っていた経緯からの共同体制での運営・情報共有化がされている組織が継承されてきていること、そしてコミセン湘南を中心に

広報活動を推進していることを伝えるとともに、改めて意義があることを再認識しました。

また、活動にあたって、“シンボルマーク”を作って住民間の結束を図ろうとして来ていることや、各自治会・各団体の長と一体となった情報通信員による行事予定表に基づく情報収集や更新は有意義であり、さらに強固にしていかなければならないことも痛感しました。

話し合っている中では若い人が多く参加することが重要であることも皆の意見として出てきました。

反省することも改善すべきことも多々見付き、他地区とこのような情報を交換することの必要性を感じました。

今後このような交流会を更に広めていきたいと思いました。

以上